

TRIO パリ・東京・大阪 モダンアート・コレクション

見て、比べて、話したくなる

東京国立近代美術館 24.05.21~08.25 大阪中之島美術館 24.09.14~12.08

本展は、パリ、東京、大阪—それぞれ独自の文化を育んできた3都市の美術館のコレクションが終結する企画で、何れも大都市の美術館として豊かなモダンアートのコレクションから共通のある作品でトリオを組み構成するという、これまでにないユニークな企画である。展示作品は、時代や流派、洋の東西を超えて、主題やモチーフ、色や形、素材、作品が生まれた背景など、自由な発想で組まれたトリオの総勢「110名」の作家による、絵画、彫刻、版画、素描、写真、デザイン、映像など「150点余」の作品で、「34のトリオ」を組んで、それをテーマとして「7つの章」に分けて紹介をしている。



アンリ・マティス 《椅子にもたれるオダリスク》 1928年 左図

萬鉄五郎 《裸体美人》 1912年 中図

アメデオ・モデイリアーニ 《髪をほどいて横たわる裸婦》 1917年 右図

モデルたちは、大胆にくつろいだポーズで思い思いに寝そべるが、オダリスクには見るものの視線を跳ね返し、パワーがみなぎっているようである。



いずれも植物が画面全体を覆っているが、3人の画家たちは皆植物に深いゆかりがあり、それぞれが好んだ草花や果実や動物をリズムカルに画面に配置しているため、どこか幻想的な雰囲気、果物の香りが匂い立つようである。

ラウル・デュフィ 《家と庭》 1915年左図 辻永 《椿と仔山羊》 1916年中図

アンドレ・ポーシャン 《果実棚》 1950年右図